

岐阜県立恵那高等学校

学校長 谷口 陽一郎
学校住所 岐阜県恵那市大井町1023番地1 電話 0573-26-1311

- 1 会議の名称** 恵那高等学校評議員会 (第1回)
- 2 会議の構成**

委員	伊藤 昭生 小栗 恵子 加藤 元章 柘植 麻美 古山 紀昭	元自治会区長、元県立高等学校長 恵那市主任児童委員 恵那高等学校PTA副会長 柘植会計事務所税理士 地域住民、恵那高等学校元PTA会長 (委員名は五十音順)
学校側	谷口陽一郎 森井 静子 谷口 達也 伊藤 仁 三輪田久信 高橋 清仁 佐々木俊哉	校長 教頭 事務部長 教務部長 生徒指導部長 進路指導部長 理数科部長
- 3 会議の目的** 学校運営について、地域住民や関係諸機関の代表者から幅広く意見を聞き学校改善を図り、地域全体からの支援・協力を得て、愛され信頼される開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催** 平成27年 7月 8日(水) 13:20~15:30 恵那高等学校校長室
委員4人と学校側7人が出席
- 5 会議の概要** 学校長挨拶の後、理数科部長より理数科及びSSH事業について説明し、理数科2年生の授業「課題研究」を参観した。その後、校長室にて学校側から学校マニフェスト・教育活動の概要を説明し、各委員の方々からの意見聴取及び意見交換を行った。

(1) テーマ 学校概要説明

- 理数科部** 平成16年度に始まったSSH事業は、今年度、第Ⅲ期4年目(通算12年目)を迎え、研究開発課題「科学の手法」と「真の国際性」を兼ね備えた人材の育成に向かって、昨年度の中間発表・評価を踏まえ充実した研究・活動を展開している。探究型学習活動をとおして、論理的思考力や課題発見・問題解決能力、コミュニケーション能力の育成を図っており、第Ⅲ期ではディベートやハワイ研修も実施している。第Ⅳ期の継続申請に向けて、他校種交流や地域の特性を生かした取組等、今後の事業内容を検討していく必要がある。
- 教務部** 特徴ある教育実践としては、45分7限授業や「総合的な学習の時間」の取り組み、SSH事業等がある。45分授業については、大半の生徒が集中して取り組み、教員側も積極的に授業内容の精選及び授業改善に取り組んでいる。普通科「総合的な学習の時間」の実践については、SSH事業と並んで本校の大きな特徴であり、ここでも発信力、課題探求・問題解決力の育成を図っている。また、部活動や学校祭等の生徒の取組もアピールできる本校の魅力である。今後は、高大接続に関する情報収集やそれを踏まえた教育課程の研究が必要である。
- 生徒指導部** 生徒指導はすべての教職員ですべての生徒に対して行うものであるというスタンス

で、組織的に指導に当たっている。「進取闊達にして知性と情操豊かな将来のリーダーとなりうる生徒を育てる」という教育目標のもと、生徒会活動、特別活動、部活動の充実を図っており、実際生徒たちの多くが非常に主体的に積極的に活動している。また、一方、行き詰まり感を持つ生徒もおり、担任・教育相談係と連携し、きめ細やかな対応を心がけている。

進路指導部 昨年度もほぼ全員が進路目標達成に向けよく頑張り、99名が国公立大学に合格した。今年度第1回進路希望調査結果からも、大半の生徒が国公立大学進学を希望しており、その達成のため、各学年、進路に関する様々な行事を予定している。特に、今年は土曜講座を7講座に増やし、サテラインや土曜開放とあわせて、学校で学習できる環境を一層整えた。

また、9月には新規事業で福井大学等の「大学説明会」を予定しており、様々な大学に目を向けてもらえるよい機会としたい。

(2) テーマ 意見交換

意見 1 2年生理数科の課題研究の授業を参観したが、1年～3年で学年をまたいで交流する機会はないか。

職員 1 技術や研究の連続性を考慮すると、3学年で研究面で交流する機会があるとよいが、授業の関係で難しい。愛知県では、科学クラブという形でSSHに取り組んでいる学校が多く、その場合学年を越えた取組となり研究に深まりができる。
本校は、理数科での取組というスタンスで事業展開している。

意見 2 理数科の生徒の取組状況はどうなっているのか。

職員 2 週1時間課題研究の時間があり、そこで研究に取り組んでいる。長時間の観察等が必要な場合等、その各研究の必要に応じて放課後や土・日曜日に研究をするグループもある。
3年間研究を継続して課題研究を実施している学校が少ない。文科省からはその点を評価していただいている。また、3年時に集中的に取り組む学校もある。

意見 3 現在の科学部の内訳はどうか。理数科に偏ってはいないか。

職員 3 科学部には普通科の生徒もおり、理数科生徒に偏っているわけではない。科学部もSSH事業の対象としてあり、科学系のコンクール等にも参加している。

意見 4 科学部の研究内容はどうか。

職員 4 全般的に取り組んでいる。今年度は顧問が1名増え、生物だけでなく物理・地学分野が加わっている。

意見 5 昨年度3年生の進路実績について、国公立大学合格者数が99ということだが、普通科出身の生徒の進路についてはどうか。

職員 5 昨年度の99名の内訳は、普通科49名、理数科50名である。難関校にチャレンジするため浪人した生徒も数名いる。

意見 6 生徒指導について、どちらかの科に偏っているということはないか。

職員 6 どちらかの科に偏っているわけではない。学校生活に困り感が強かったり、不登校傾向であったりという生徒はどちらの科にもおり、学習面の問題だけでなくそれぞれに事情がある。

意見 7 本日課題研究の授業を参観させていただいたが、十分魅力がある。学校の魅力がないと生徒は集まらない。課題は、いかに魅力を情報発信するかである。
地元企業の社長の中には、名古屋方面の私立高校に通っているお子さんたちを持つ方

が多い。今は恵那高校出身の方が多いが、将来、地元の優秀な生徒が地元に戻って活躍してほしい。優秀な人材が武並あたりからも多治見地区や名古屋方面に向かってしまう。現在の取組を発信すれば、有名私立高校等と比較しても遜色ない。

- 意見 8 理数科と普通科のように、科で差があるのは近頃少ないのではないのか。
- 職員 7 理数科については、県内でも全国的に見ても定員割れとなっている学校が多い。高校説明会で「特進的なクラス」という説明をしているように、20%程度は文系希望者である。先日学校見学に来校された土岐市立中学校の保護者からもデメリット・メリットについて質問があった。多くの中学校で「科」の特色を理解していただいているので、現在の結果になっていると思われる。
- 職員 8 県からは学校の特色を出すようにと言われる。例えば、SSHという特色は理数系が苦手な生徒には少々敬遠するという要素になり、反対にSSHがあるから入学希望を決めたという理由になる。理解してもらっているから、多治見～瑞浪出身の生徒が以前より増えていると考えられる。
- 意見 9 地元企業の方にはSSHはあまり知られていないのか。
- 意見 10 地元の企業経営者の多くが子どもの教育を地元出身でない母親任せにする傾向がある
- 職員 9 駅近辺に住む人の1割以上が地区外に通学していると言われている。
- 職員 10 5年後くらいには少子化に伴い、状況は激変するし、定員減もありうる。どういう授業を展開しどういう特徴を出していくかが課題である。
- 意見 11 恵那高には硬式野球部や吹奏楽部がないから行かないという声がある。負担増になるとは思うが、新規の部として立ち上げるというのはどうか。
- 意見 12 吹奏楽だと中津商業高校に進学する生徒もいる。
- 職員 11 新規の部活動については、教員配置や安全確保等の面で難しい。また、生徒数が最大の頃と比較して随分減っており、生徒の取り合いにもなってしまう。今年は水泳部については、お断りした経緯もある。
- 意見 13 特進クラス的な「理数科」であり、SSH事業を通じて科学分野を伸ばしてもらえるのはありがたいし、恵那高校の特徴である。しかし、少子化そして再編となると、どういう方向になるのか。学校規模や生徒を集められるかという問題がある。引き続き、SSH等の特徴ある教育活動をお願いしたい。
- 意見 14 「リーダーを育てる」ということだが、地域のリーダーとしての人材を確保したい。地元もよいところであるということを知らせたい。機会があればぜひ、地元で働くのも悪くないなということを示せば、4年後に帰ってくる生徒も増えるのではないのか。
- 職員 12 優秀な人材を都市部にとられてしまう現状があるので、進路学習で地元のPRをしていきたい。
- 職員 13 SSHの中でも地域と関わる「恵那を科学しよう」という取組があるし、その他課題研究でも地域と関わる研究がある。また、地域と関わる取組、地域とのつながりが求められているし、地域密着な研究への働き掛けもしている。昨年度は、釉薬の研究グループ等があった。
- 意見 15 課題研究の参観中、セルロースの研究グループの生徒が、地元の特産である栗の「いが」の分解に生かすと話してくれるのを聞き、とてもうれしく思った。
- 職員 14 「総合的な学習の時間」のテーマの中にも、「外国人がたくさん来る「釜戸旅館」を作るには～下呂温泉を例にして～」という地元密着の取組がありよかった。

職員15 地元ということとなると、恵那高校出身の小・中・高校の教員採用者は近年多い。

意見16 就職情報の収集パターンが画一的になってしまっており、なかなか地元に戻らないのが現状である。恵那市及び中津川市のそれぞれのUターンサイトについての案内等、両市の資料提供をさせていただければありがたい。

意見17 地域の良さを伝える・知ることは大事である。中・高校生、短大生とで伝統の「浦安の舞」を伝承する活動をしているが、継続参加している中・高校生を育て達成感を持たせたり、関わった生徒に恵那市の保育士を勧めたりしている。地域で何らかの働きかけをすることは大事だと思う。

意見18 本日の授業でも私たちに質問によく反応してくれた。地域に関わる研究を楽しいと話しており、しっかりとした考えを持って取り組んでいて良い印象である。夢に対して励ましあったり認めあったりと、生き生きとした生徒の姿をみせてもらった。

6 会議のまとめ

今は発表や議論などを通してよく考える生徒たちに育ってきている。学校の特色を出し、地域に戻ってくる生徒を育てるという役割も改めて実感した。

今後も学習活動だけでなくSSHの取り組みや各行事をとおして、人間力のある、地元・社会に貢献できる生徒、リーダーとなる人材を育成するために、評議員の皆様をはじめ、多くの方々の意見を取り入れながら、全職員で協力し尽力していきたい。